

令和7年度第2回津地域高等学校活性化推進協議会

配 付 資 料

- 令和7年度津地域高等学校活性化推進協議会委員名簿 …………… P 1
- 【資料1】令和7年度第1回津地域高等学校活性化推進協議会の概要 …………… P 2
- 【資料2】津地域の県立高等学校（全日制）の入学者選抜の状況 …………… P 4
- 【資料3】※ 津地域の高等学校の学科・コースについて（令和8年度） …………… P 6
- 【資料4】※ 津地域の中学校卒業生数の推移と予測（含社会増減） …………… P 9
- 【資料5】※ 津地域の中学校卒業生数と
県立高等学校入学定員（全日制）の推移 …………… P 10
- 【資料6】※ 令和22年度までの津地域の
県立高等学校（全日制）の総学級数について …………… P 11
- 【資料7】津地域の県立高等学校における学びと配置のあり方についての協議 …… P 12
- 【資料8】各校における地域と連携した学びについて …………… P 17
- 【資料9】
 - ①（概要）地域の中学生・保護者を対象としたアンケート調査の実施について …… P 25
 - ②（生徒用）高校や将来に関するアンケート《質問用紙》 …………… P 26
 - ③（保護者説明）「津地域の県立高校に関するアンケート」について …………… P 28
 - ④（保護者用）津地域の県立高校に関するアンケート《質問用紙》 …………… P 30
- 【別冊資料】令和7年度3地域の活性化協議会まとめ（一部抜粋）

※印は、令和7年度第1回協議会資料の再掲

令和7年度 津地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿

No.		所 属 及 び 名 前
1	学識経験者	三重大学 教育学部 教授 大日方 真史
2	地域有識者	津商工会議所 常務理事 塚澤 正樹
3		津市商工会 事務局長 家城 吉孝
4	市町教育委員会教育長	津市教育委員会 教育長 森 昌彦
5	県立高等学校長代表	県立津西高等学校 校長 中川 剛
6	小中学校長代表	津市立白山中学校 校長 佐藤 文規
7	小中学校PTA代表	津市PTA連合会 会長 (津市立一志中学校PTA) 木原 剛弘
8	高等学校PTA代表	三重県高等学校PTA連合会 副会長 (津高等学校PTA) 安田 雅人
9	小中学校教職員代表	津市立養正小学校 教諭 大藪 直之
10	高等学校教職員代表	県立津東高等学校 教諭 松田 泰知

令和 7 年度第 1 回津地域高等学校活性化推進協議会の概要

- 1 日時 令和 7 年 8 月 29 日（金） 19 時 00 分から 21 時 00 分まで
- 2 場所 三重県吉田山会館 第 206 会議室
- 3 概要

「県立高等学校活性化計画」や、15 年先までの当地域の中学校卒業生数の減少の状況をふまえ、以下の 2 点について協議しました。

- ① これからの津地域の県立高校の学びと配置のあり方を考える上で、大切にしたいことについて
- ② 地域の中学生や保護者を対象としたアンケートにおける質問内容や実施方法等について

主な意見は次のとおりです。

（実現したい学びと育みたい力について）

- これからの高校教育では地域の方とのつながりがより重要となる。地域とともにある高校という姿を見せながら、地域としっかりと対話していくことが大切である。（木原委員）

（学校規模について）

- 学校規模によらず一定の校務が存在することから、小規模化が進むと、一人ひとりの教員が子どもに向き合う時間の確保が難しくなる。また、生徒の興味・関心に応じた多くの選択科目を開設し、学校の特色化を進めるためにも、一定の学校規模が必要である。

（中川委員）

- 法律で定められている教職員定数の標準にこだわることなく、県が独自に教員を配置することができれば、小規模校でもしっかりとした教育が展開できるのではないかと。（木原委員）

（学校の配置について）

- 一定の学校規模が必要ということになると、どうしても人口が多いところに高校を配置することになる。過疎化が進む地域で、子育てがしにくい状況を助長することがないよう、各地域に教育機関を置くことも大切ではないかと。（木原委員）
- 学校規模は大切な視点であるが、多様な子どもたちがいる中で、沿岸部ではなく自然豊かな場所で学びたいと考える子どもが選択できる学校もあるとよい。（森委員）
- 少子化が進む山間部の高校で生徒数を確保するのは厳しいとは思いますが、白山高校は地域のシンボルであり、地域住民の定住につながる大切な教育機関である。また、白山高校がなくなると、高齢者にとっても大切な交通手段である名松線が廃止されるのではないかと危惧している。（家城委員）

(今後の協議の進め方について)

- 老朽化が進む校舎の建替えを考えるためにも、ある程度今後の方向性を決めておく必要がある。現在の1学年47学級から39学級程度にまで減少する令和12年度を1つのゴールとしてはどうか。(安田委員)
- 前回の協議会でも意見のあったように、地域と連携した学びを推進するために地域の方の意見を聞く機会があるとよいのではないかと。(大日方会長)
⇒(事務局) 当協議会の設置要綱に「必要に応じて関係者の出席を求め、意見を聞くことができる」とあるので、その方向で進めたい。
- 子どもたちに選ばれる高校となるためには、多様な学びの選択肢などのソフト面はもちろんのこと、エアコンや専門性の高い学びに必要な施設・設備などのハード面でも充実した学校にしていく必要があるのではないかと。(塚澤委員)
- 各高校では、学級減が進む中でどのように特色を出していくかを考え始めている。統合についての協議を急ぐのではなく、津地域の小中学生の学びの選択肢を残すために、どのように各校の特色を出していくかを議論することが大切である。(松田委員)
- 津地域の協議会は、他地域と比べると方向性を取りまとめるまでに少し時間的な余裕があるので、統合を含む学級減への対応だけを議論するのではなく、学校の魅力化に向けていろいろなアイデアを出していきたい。(大日方会長)

(アンケート調査について)

- 津市は面積が広く、地区によりさまざまな状況が異なるので、旧市町別に集計する必要があるのではないかと。(木原委員)(塚澤委員)
- 理想とする1学年の学級数の質問に関して、例えば、小さい規模の学校で学んでいる中学生にとって、大きい規模の学校は想像しにくいのではないかと。(松田委員)
⇒(事務局) 先行してアンケートを実施した地域でも、「現在学んでいる中学校の学級数」と「理想とする高校の学級数」とのクロス集計結果で、そのような傾向はあったものの、中学生の想いを把握することを念頭に、同様の設問を設定していたものである。
- 統合すべきか否かの質問については、当事者意識の強さにより結果が大きく変わると思われる。何年先のことをどの学年の保護者に聞くかは、十分な検討が必要である。(森委員)
- 高校を統合して人口が多いところに集約すればよいという行政の方針の裏付けにするために、このアンケートを実施したいのであれば反対である。(木原委員)
- 委員一人ひとりの立場や経験も1つの根拠となるが、アンケート結果などの客観性のある根拠なしに議論を進めていくのは難しいのではないかと。(中川委員)

津地域の県立高等学校（全日制）の入学者選抜の状況【令和8年度：現中3】

学校名	学科・コース	R 8 入学 定員	R 7. 12月 進学希望者数		前期選抜等			後期選抜			再募集			入学者 数	欠員
			定員との 差		募集定員	志願者数	合格内定者数	募集定員	志願者数	合格者数	募集定員	志願者数	合格者数		
津	普通	320	386	66				320	出願 願書入力(Web) 2月5日 ～20日 書類受付 2月24日 ～26日 出願 願書入力(Web) 3月17日 ～19日 書類受付 3月18日 ～19日 志願変更 願書入力(Web) 2月27日 ～3月5日 書類受付 3月3日～5日 検査 3月10日 合格者の発表 3月17日 合格者の発表 3月25日	後期選抜 追検査 ・再募集検査 3月23日					
	学校計	320	386	66				320							
津西	普通	240	186	▲ 54				240							
	国際科学	80	181	101	40	176	40	40							
	学校計	320	367	47	40	176	40	280							
津商業	ビジネス	200	196	▲ 4	100	178	108	92							
	情報システム	40	33	▲ 7	20	30	22	18							
	学校計	240	229	▲ 11	120	208	130	110							
津東	普通	240	266	26	60	217	62	178							
	学校計	240	266	26	60	217	62	178							
津工業	機械	120	132	12	60	125	66	54							
	電気	40	40	0	20	36	22	18							
	電子	40	49	9	20	55	22	18							
	建設工学	40	38	▲ 2	20	40	22	18							
	学校計	240	259	19	120	256	132	108							
久居	普通	160	174	14	48	154	53	107							
	学校計	160	174	14	48	154	53	107							
久居 農林	生物生産	40	80*	35	▲ 5	20	32	22			36				
	生物資源	40		33	▲ 7	20	31	22							
	環境情報	40	80*	22	▲ 18	20	25	22			36				
	環境土木	40		40	0	20	38	22							
	生活デザイン	80	70	▲ 10	40	69	44	36							
	学校計	240	200	▲ 40	120	195	132	108							
白山	普通	40	27	▲ 13	20	27	22	18							
	情報 コミュニケーション	40	15	▲ 25	20	17	17	23							
	学校計	80	42	▲ 38	40	44	39	41							
地域内県立高校 計		1,840	1,923	83	548	1,250	588	1,252							

※入学者数と合格者数の合計が一致しないことがあるのは追検査による合格者等を含むため

※「R 7. 12月進学希望者数」は、県内の国公立中学校3年生を対象に実施された調査結果

※久居農林:後期選抜はくり募集（入学者を一括して募集し、入学後に所属する学科・コースを決定する）

津地域の県立高等学校（全日制）の入学者選抜の状況【令和7年度：現高1】

学校名	学科・コース	R7 入学 定員	R6.12月 進学希望者数		前期選抜等			後期選抜			再募集			入学者 数	欠員
			定員との 差	募集定員	志願者数	合格内定者数	募集定員	志願者数	合格者数	募集定員	志願者数	合格者数			
津	普通	320	346	26				320	357	320				321	
	学校計	320	346	26				320	357	320				321	
津西	普通	240	195	▲45				240	173	240				240	
	国際科学	80	143	63	40	139	41	39	112	39				80	
	学校計	320	338	18	40	139	41	279	285	279				320	
津商業	ビジネス	200	248	48	100	216	108	92	125	92				200	
	情報システム	40	32	▲8	20	22	22	18	12	18				40	
	学校計	240	280	40	120	238	130	110	137	110				240	
津東	普通	240	324	84	60	178	62	178	244	178				240	
	学校計	240	324	84	60	178	62	178	244	178				240	
津工業	機械	120	99	▲21	60	92	66	54	58	54				120	
	電気	40	54	14	20	54	22	18	23	18				40	
	電子	40	27	▲13	20	24	22	18	16	18				40	
	建設工学	40	46	6	20	45	22	18	19	18				40	
	学校計	240	226	▲14	120	215	132	108	116	108				240	
久居	普通	200	194	▲6	60	153	66	134	138	134				200	
	学校計	200	194	▲6	60	153	66	134	138	134				200	
久居 農林	生物生産	40	80*	50	10	20	45	22	36	40	36			81	
	生物資源	40		42	2	20	41	22							
	環境情報	40	80*	20	▲20	20	21	21	37	35	37			80	
	環境土木	40		28	▲12	20	29	22							
	生活デザイン	80	83	3	40	80	44	36	42	36				80	
	学校計	240	223	▲17	120	216	131	109	117	109				241	
白山	普通	40	33	▲7	20	32	22	18	10	9	9	4	4	35	▲5
	情報 コミュニケーション	40	17	▲23	20	21	21	19	1	1	18	5	5	27	▲13
	学校計	80	50	▲30	40	53	43	37	11	10	27	9	9	62	▲18
地域内県立高校 計		1,880	1,981	101	560	1,192	605	1,275	1,405	1,248	27	9	9	1,864	▲18

※入学者数と合格者数の合計が一致しないことがあるのは追検査による合格者等を含むため

※「R6.12月進学希望者数」は、県内の国公立中学校3年生を対象に実施された調査結果

※久居農林:後期選抜はくり募集（入学者を一括して募集し、入学後に所属する学科・コースを決定する）

津地域の高等学校の学科・コースについて(令和8年度)

資料3①
(再掲)

		募集定員		1	2	3	4	5	6	7	8		
津地域全日課程	県立	津	320	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科		
		津西	320	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	
		津商業	240	専門学科	ビジネス科 会計類型・経営情報類型	ビジネス科	ビジネス科	ビジネス科	ビジネス科	ビジネス科	情報システム科	国際科学科	国際科学科
		津東	240	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科
		津工業	240	専門学科	機械科	機械科	機械科	電気科	電子科	建設工学科 建築コース 都市防災コース	電子科	電子科	電子科
		久居	160	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科
		久居農林	240	専門学科	生物生産科 食品コース 植物コース	生物資源科 植物コース 動物コース	環境情報科 環境保全コース ガーデニングコース	環境土木科 ガーデニングコース 土木・機械コース	生活デザイン科 食生活コース・衣生活コース・住生活コース	生活デザイン科	生活デザイン科	生活デザイン科	生活デザイン科
		白山	80	普通科 専門学科	普通科 普通科 福祉類型	情報コミュニケーション科 メディア系類型 観光ビジネス系類型	情報科	情報科	情報科	情報科	情報科	情報科	情報科
		高田	560	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科
		セントヨゼフ女子学園	125	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科
私立	685	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科		

全46学級
普通科※27
専門学科19
(工業6)
(商業7)
(農業4)
(家庭2)
総合学科0

※大学の「普通科」には、普通科系専門学科を含む

普通科(特進S/特進コース、進学コース、アスリートコース) ※県外扱い

総合学科(午前の部、午後の部、夜間部)

普通科(全日型コース、土曜コース、フレックスコース)

○全日課程 私立 青山

○定時課程 県立 みえ夢学園

○通信課程 私立 一志学園

【参考】鈴鹿亀山地域の高等学校等の学科・コース(令和8年度)

学校名	大学科※	募集定員	1	2	3	4	5	6	7	8
			神戸	普通科	280	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科
飯野	普通科	160	応用デザイン科	応用デザイン科	英語コミュニケーション科	英語コミュニケーション科				
白子	普通科	240	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	生活創造科		
	専門学科							文化教養(吹奏楽)コース		
石薬師	普通科	80	普通科	普通科	普通科	普通科				
稲生	普通科	160	普通科	普通科	普通科	体育科				
亀山	普通科 専門学科	200	普通科	普通科	システムメディア科	システムメディア科	総合生活科			
鈴鹿	普通科	470	普通科(特進コース、探究コース、総合コース、中等教育学校後期課程(医進・選抜コース、特進コース))							

全28学級
普通科※ 24
専門学科 4
(家庭2)
(情報2)
総合学科 0

※大学科の「普通科」には、普通科系専門学科を含む

- 定時制課程 県立 飯野 80 普通科
- 通信制課程 私立 徳風 240 普通科(総合コース、ドッグケアコース、パソコンコース、日本語コース、土日サボートコース) ※技能連携あり
- 高等専門学校 国立 鈴鹿工業高専 200 機械工学科(40)、電気電子工学科(40)、電子情報工学科(40)、生物応用化学科(40)、材料工学科(40)

【参考】伊賀地域の高等学校等の学科・コース(令和8年度)

学校名	大学科※	募集定員	1	2	3	4	5	6	7	8
			上野	普通科	240	学際探究科	学際探究科	学際探究科	学際探究科	理数科
伊賀地域 全日制課程	あけぼの学園	40	総合学科 (美容系列、生活 教養系列)	総合学科						
	伊賀白鳳	240	機械科(35人)、電子機械科(35人)、建築デザイン科(35人)、生物資源科(35人)、 フードシステム科(35人)、経営科(30人)、ホームページ科(35人)							
	名張	200	総合学科 (文理アド)ハンス系列、総合ビジネス系列、健康スポーツ系列、表現デザイン系列)							
	名張青峰	200	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科 (文理探究コース)	普通科		
桜丘	普通科	155	普通科							

全24学級
普通科※ 11
専門学科 7
(工業3)
(商業1)
(農業2)
(福祉1)
総合学科 6

※伊賀白鳳高校は240人定員、7学級

※大学科の「普通科」には、普通科系専門学科を含む

- 全日制課程 私立 愛農学園農業 25 農業科 ※県外扱い
- 定時制課程 県立 上野 40 普通科
- 通信制課程 県立 名張 40 普通科
- 通信制課程 私立 英心桔梗が丘校 40 普通科(探究コース)
- 通信制課程 私立 神村学園高等部伊賀 50 普通科(選択登校型自律学習コース、全日型特別能力コース) ※県外扱い
- 高等専門学校 私立 近畿大学工業高専 160 機械システムコース、電気電子コース、制御情報コース、都市環境(土木系、建築系)コース

資料 3 ③
(再掲・一部追記)

【参考】松阪地域の高等学校の学科・コース(令和8年度)

学校名		募集定員		1	2	3	4	5	6	7	8
松阪地域全 日制課程	松阪	普通科	280	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	理数科	理数科	
	松阪工業	専門学科	200	工業化学科	機械科	繊維デザイン科	自動車科	電気工学科			
	松阪商業	専門学科	160	総合ビジネス科	総合ビジネス科	総合ビジネス科	国際ビジネス科				
	飯南	総合学科	80	総合学科(郷土・環境、介護福祉、総合進学、コンピュータ)							
	相可	普通科 専門学科	200	普通科	普通科	生産経済科	環境創造科	食物調理科			
	昇学園	総合学科	80	総合学科(地域探究、総合スポーツ、美術工芸、生活福祉、環境技術)							
	私立 三重	普通科	530	普通科	普通科(STELLAコース(特進クラス、選抜クラス)、NAVISコース(進学クラス、アスリートクラス)、6年制(特別選抜クラス、選抜クラス))						

全25学級
普通科 9
専門学科 12
(工業5)
(商業4)
(農業2)
(家庭1)
総合学科 4

※大学の「普通科」には、普通科系専門学科を含む

- 定時制課程 県立 松阪工業 40 普通科
- 通信制課程 県立 松阪 200 普通科
- 私立 みえ大台おおぞら高校 一 ※認可申請中

津地域の中学校卒業生数の推移と予測(含社会増減)

令和7年5月1日 教育政策課調べ

	R 4.3 卒業	R 5.3 卒業	R 6.3 卒業	R 7.3 卒業	R 8.3 現中3	R 9.3 現中2	R 10.3 現中1	R 11.3 現小6	R 12.3 現小5	R 13.3 現小4	R 14.3 現小3	R 15.3 現小2	R 16.3 現小1
津地域 (津市)	2,520	2,655	2,636	2,527	2,552	2,451	2,438	2,368	2,299	2,263	2,211	2,183	2,029
		135	-19	-109	25	-101	-13	-70	-69	-36	-52	-28	-154
					25	-76	-89	-159	-228	-264	-316	-344	-498
【参考】													
鈴鹿地域 (鈴鹿市・亀山市)	2,409	2,221	2,413	2,268	2,258	2,212	2,091	2,091	2,101	2,066	1,876	1,780	1,805
		-188	192	-145	-10	-46	-121	0	10	-35	-190	-96	25
					-10	-56	-177	-177	-167	-202	-392	-488	-463
伊賀地域 (伊賀市・名張市)	1,455	1,421	1,408	1,451	1,368	1,377	1,348	1,273	1,219	1,186	1,162	1,064	1,000
		-34	-13	43	-83	9	-29	-75	-54	-33	-24	-98	-64
					-83	-74	-103	-178	-232	-265	-289	-387	-451
松阪市	1,386	1,457	1,467	1,446	1,388	1,442	1,325	1,228	1,210	1,249	1,211	1,093	1,149
		71	10	-21	-58	54	-117	-97	-18	39	-38	-118	56
					-58	-4	-121	-218	-236	-197	-235	-353	-297
県内合計	16,244	16,055	15,891	15,718	15,517	15,261	14,807	14,345	14,044	14,030	13,399	12,753	12,408
		-189	-164	-173	-201	-256	-454	-462	-301	-14	-631	-646	-345
					-201	-457	-911	-1,373	-1,674	-1,688	-2,319	-2,965	-3,310

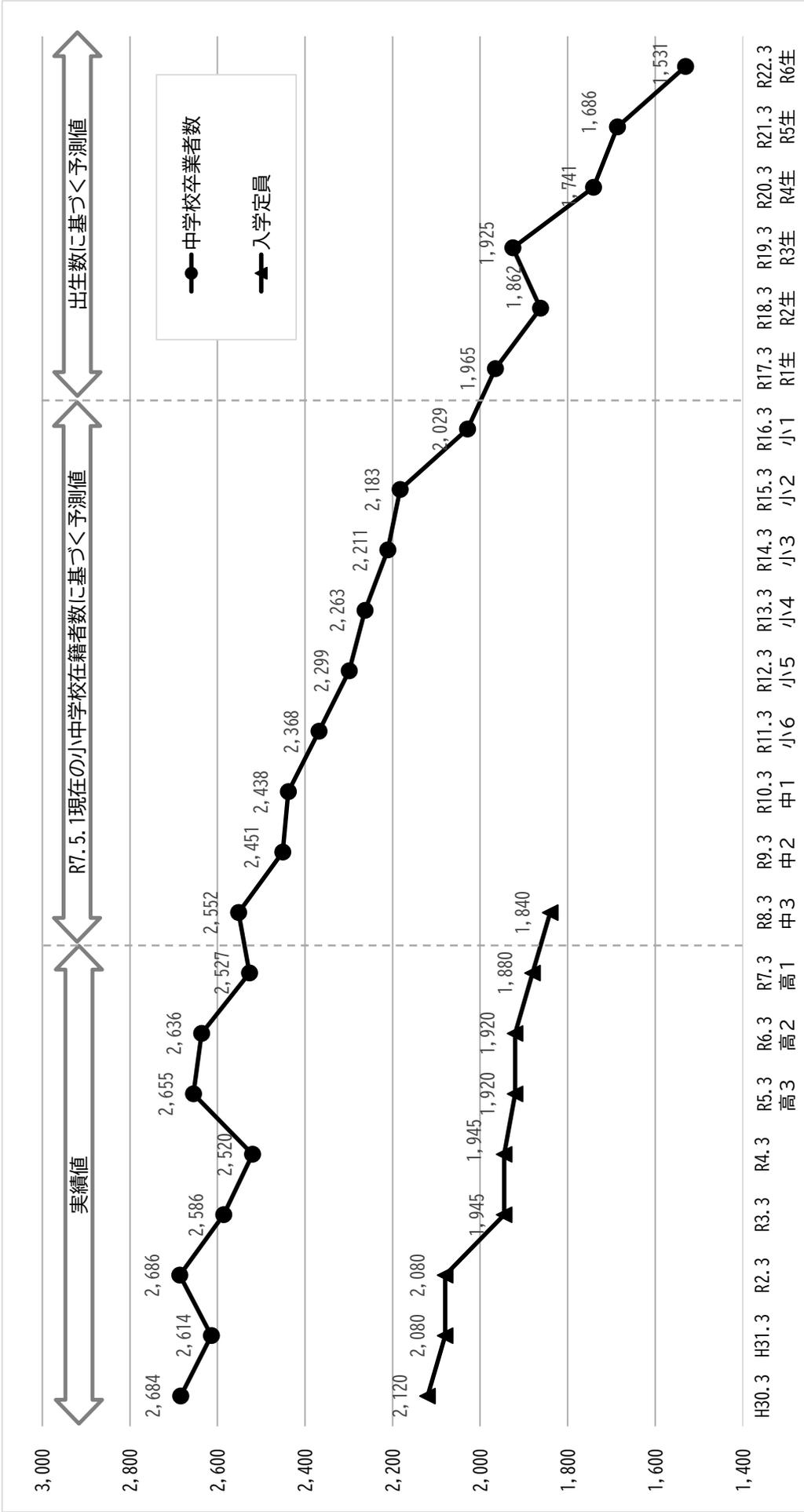
【県立高校(全日制)】

津地域	入学定員	1,945	1,920	1,920	1,880	1,840
	学級数(募集)	49	48	48	47	46
	欠員数	42	11	0	18	—
県内合計	学級数(募集)	274	268	263	258	252
	欠員数	324	334	207	179	—

【私立高校(全日制)】

高田	入学定員	570	565	560	560	560
セントヨゼフ	入学定員	135	130	130	125	125

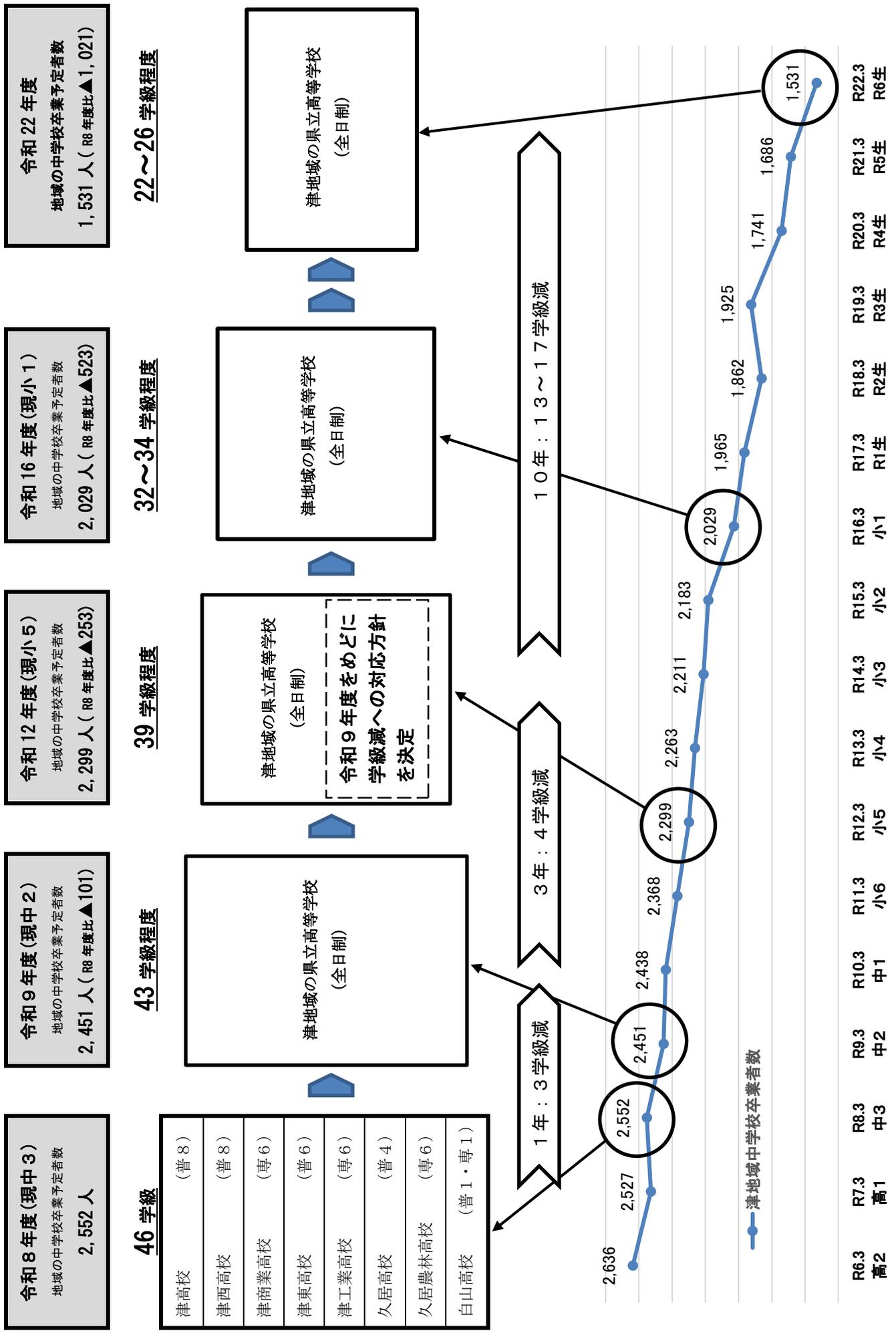
津地域の中学校卒業業者数と県立高等学校入学定員（全日制）の推移



【津地域の出生数と予測値】

	H28年度生	H29年度生	H30年度生	R元年度生	R2年度生	R3年度生	R4年度生	R5年度生	R6年度生
	現小3	現小2	現小1	5～6歳	4～5歳	3～4歳	2～3歳	1～2歳	0～1歳
出生数	2,040	2,045	2,020	1,868	1,770	1,830	1,655	1,603	1,455
予測値	2,211	2,183	2,029	1,965	1,862	1,925	1,741	1,686	1,531

令和22年度までの津地域の県立高等学校（全日制）の総学級数について



津地域の県立高等学校における学びと配置のあり方についての協議

協議会を設置した令和5年度から7年度第1回までの協議を、次のとおりまとめました。

(○：R5第1回 ◇：R6第1回 ▽：R6第2回 ●：R7第1回)

1 津地域において実現したい学びと育みたい力

- 大手企業への就職を希望する生徒や保護者が多いが、中小企業で働くことの魅力や地元の優良企業について知ってもらい、地域の高校を卒業した生徒が、地元企業へ就職してもらえるような環境をつくっていききたい。
- ◇ 高校入学後の満足度を高めるためには、子どもたちが高校での学びや卒業後の進路を見据えて学校を選択する力が必要である。そのためには、地域の小中学校と高校の学びを連携させ、子どもたちが小さいころから将来を考え、自らの進路を自らが選択する力を身につけていくことが大切である。
- ◇ 当地域の普通科の特色化・魅力化について協議するのであれば、生徒が主体的に課題解決に取り組む探究的な学びを中心に据えた学科の設置を考えてはどうか。
- ◇ 職業学科だけでなく、就職者が多い普通科においても、仕事と結びつくような学びを取り入れてもらいたい。
- ▽ 近年は探究の学びを生かして大学へ進学する生徒もいるなど、大学入試も変わってきており、今後は普通科において探究学習のニーズはますます高まるのではないかと。
- ▽ 上野高校や川越高校のような学際領域学科ではなく、地域や社会の将来を担う人材の育成を図るために、地域社会が有する課題や魅力に着目した学びに取り組む地域社会学科の設置を検討してはどうか。
- これからの高校教育では地域の方とのつながりがより重要となる。地域とともにある高校という姿を見せながら、地域としっかりと対話していくことが大切である。

- ・自らの進路を自らが選択する力
- ・生徒が主体的に課題解決に取り組む探究的な学び
- ・地域が有する課題や魅力に着目した学び
- ・地域の小中学校と高校が連携した学び
- ・学科に関わらず職業と結びつくような学び
- ・地元地域で活躍する人材の育成
- ・地域とともにある高校

2 津地域の高校の学びと配置のあり方を考えるうえで大切にしたいこと

(1) 学科について

- 津地域には、旧津市内に私立高校を含め普通科の高校が多く設置されている。中学校卒業生数が減少する中で、子どもたちの多様なニーズに応えていくためには、専門学科の選択肢を維持するとともに、当地域における普通科の配置のあり方や特色化・魅力化についての議論が必要である。

- ◇ 中学生が高校選択を考える際に、地域に学びの選択肢が多い状況をつくることが大切である。
- ◇ 学級数が減ることで、子どもたちの進路選択の幅が狭まることのないよう、県独自の予算で教員を配置してほしい。とはいえ、前回の議論のとおり、普通科の学級数をある程度減じながら、専門学科を維持していく方向性は妥当であると考えている。
- ◇ 例えば、e スポーツなど特色ある学科を設置し、学校の魅力を高めることで、県外や他地域からの入学者数を増やせるのではないか。
- ◇ 白山高校に林業科を設置するなど、地域産業と結びついた学科やコースを設置すれば、地域の活性化にもつながるのではないか。
- ▽ 白山高校について、総合学科への改編や特色ある部活動の設置により活性化を図れば、志願者増につながるのではないか。
- ▽ 将来の目標が定まっていない中学生も多いことから、選択肢の幅を広げるためにも、単に生徒数の減少にあわせて学校数を減らすのではなく、多様な学習ニーズに対応できる総合学科の設置を検討してもよいのではないか。

- ・ 専門学科の選択肢をできるかぎり維持する
- ・ 当地域に多い普通科の特色化・魅力化を図る
- ・ 地域産業と結びついた学科やコースの設置を検討する
- ・ 多様な学習ニーズに対応できる総合学科の設置を検討する
- ・ 特色ある学科、特色ある部活動の設置により、県外や他地域からの入学者を増やす

(2) 多様な子どもたちへの対応について

- 学校現場では、特別な支援を必要とする子どもたちや外国につながりがある子どもたち、不登校の子どもたちが増えている。このような多様な子どもたちを受け入れられるよう、地域の高校のあり方を考えていきたい。
- 全日制高校においても、多様な生徒の受入れという視点がより求められるのではないか。
- ◇ 中学校においても、不登校傾向や特別な支援を必要とする子どもたちが増えているが、その多くは高校で学び直し、卒業後に進学や就職をしたいと考えている。近年そうした子どもたちの多くが通信制高校に進学しているが、仲間と共に学習したり、支えてくれる教員がいたりするという環境も大切である。全日制高校においても多様な学習ニーズに応えていくという視点が必要となってきた。
- ◇ 高校においても、誰もが安心して学べる学校づくりに取り組んでほしい。
- ▽ 外国につながりのある子どもや、特別な支援を必要とする子ども、経済的に厳しい家庭の子どもなど、多様な子どもたちの選択肢が広がるような高校が、15年先にも津地域にあってほしい。

- ・ 特別な支援を必要とする子どもたちや外国につながりがある子どもたち、不登校の子どもたちなど、多様な子どもたちを受け入れる
- ・ 誰もが安心して学べる学校づくりを推進する
- ・ 通信制課程への進学が増加する中、全日制課程においても多様なニーズに応えていく

(3) 学校規模について

- ◇ 小規模校には、全ての職員が個々の生徒の抱える背景等を把握したり、丁寧に関わることができたりするなど、小規模校ならではのよさがある。一方で、多様な選択科目の開設、少人数・習熟度別指導の実施、社会・理科・芸術等における専門性の高い教員の配置、多様な進路への対応など、子どもたちの学びに関しては、学校規模があることのメリットは大きいと感じている。
- ◇ 学校規模が小さくなれば、部活動数が減ったり、部があっても単独チームで出場できなくなったりするので、小規模校のデメリットはよくわかる。一方で、小規模校だからこそできることも、ぜひアピールしてもらいたい。
- ▽ 進学ニーズに応える普通科高校については、多様な選択科目を開設し、専門性の高い教員を各教科に配置することが求められることから、参考資料にあるように、1学年8学級あることが望ましいというのは納得できる。
- ▽ 部活動の設置数や生徒の部活動への参加状況との相関から、部活動の活性化のためには1学年4学級以上が望ましい。また、生徒の安全性の確保に必要な顧問を配置するためにも一定規模があったほうがよい。
- 学校規模によらず一定の校務が存在することから、小規模化が進むと、一人ひとりの教員が子どもに向き合う時間の確保が難しくなる。また、生徒の興味・関心に応じた多くの選択科目を開設し、学校の特色化を進めるためにも、一定の学校規模が必要である。
- 法律で定められている教職員定数の標準にこだわることなく、県が独自に教員を配置することができれば、小規模校でもしっかりとした教育が展開できるのではないかと。

- ・多様な選択科目の開設、少人数・習熟度別指導の実施、社会・理科・芸術等における専門性の高い教員の配置、多様な進路への対応など、学校規模があることのメリットは大きい
- ・進学ニーズに応える普通科高校は1学年8学級あることが望ましい
- ・部活動の活性化や安全な活動のためには、一定規模が必要。(できれば1学年4学級以上)
- ・小規模校には、小規模校ならではのよさがある
- ・さまざまな工夫によって、小規模校でもしっかりとした教育が展開できるのではないかと

(4) 学校の配置について

- ◇ 遠隔授業を導入することで、自宅から遠い高校に通わなくても、同じ授業を地元の高校で受けることができるようになれば、地元の高校への進学を希望する中学生が増え、高校の活性化にもつながるのではないかと。
- ▽ 津市は広大な面積を有することから、高校の配置を考える際には、進学者数や流出入の状況など、数だけに焦点をあてた議論ではいけない。
- ▽ 津地域の高校は、沿岸部の近鉄沿線に集中しており、内陸部の生徒は名張市や松阪市の高校へ進学している現状もあることから、高校はできるだけ広域に分散して設置されているほうがありがたい。

- ▽ 教職員定数の基準が現在のままならば、15年先を見据えると学校を減らすしかないと考ええる。こうした中であっても、子どもたちのためにいくつかの学校を再編して、地域のバランスを見ながら、どこかの場所に新しく建て直すということを考えてはどうか。
- 一定の学校規模が必要ということになると、どうしても人口が多いところに高校を配置することになる。過疎化が進む地域で、子育てがしにくい状況を助長することがないよう、各地域に教育機関を置くことも大切ではないか。
- 学校規模は大切な視点であるが、多様な子どもたちがいる中で、沿岸部ではなく自然豊かな場所で学びたいと考える子どもが選択できる学校もあるとよい。
- 少子化が進む山間部の高校で生徒数を確保するのは厳しいとは思いますが、白山高校は地域のシンボルであり、地域住民の定住につながる大切な教育機関である。また、白山高校がなくなると、高齢者にとっても大切な交通手段である名松線が廃止されるのではないかと危惧している。

- ・遠隔授業の導入により、配置のデメリットを軽減し、高校の活性化を図る
- ・沿岸部の近鉄沿線に集中している一方で、地域が広域にわたることもふまえて配置を検討する
- ・再編にあわせて、どこかの場所に新しく建て直すことも検討する
- ・各地域に教育機関を置くことも大切
- ・白山高校は地域のシンボルであり、なくなると地域の交通手段がなくなること懸念される

3 今後の協議の進め方

- 1学年3学級以下の高校は統合についての協議も行くとされているが、統合の話を行き先させるのではなく、津地域の高校の魅力を高めるにはどうしたらよいかを、子ども目線で考えていくことが大切である。
- 子どもたちが将来を見通して主体的に進路を選択できるようにするために、地域の小中学生や高校生のニーズや思いを調査したうえで、協議を進める必要があるのではないか。
- ◇ 当事者である津地域の高校生や中学生に対してアンケート調査を実施し、その意見が反映されるようにしてほしい。
- ◇ 公立志向の生徒や保護者も一定数いるので、中学校卒業生数が減少する中、高校の入学定員のあり方を検討する際には、公私比率も含めてしっかりと議論してもらいたい。
- ▽ 高校の授業料無償化の議論が進んでいることから、今後私立に対するニーズが高まることを想定して協議を行う必要がある。
- ▽ 今後の学級減を考えると、地域の中だけで議論するのは限界があることから、隣接地域の協議会の検討状況も考慮する必要がある。特に専門学科のあり方等については、県全体で考える必要があるのではないか。
- ▽ 生徒数の減少を前提として学びと配置のあり方を議論するばかりでなく、人口減少対策の視点から、市外や県外からいかに生徒を集めるかという議論もあってよい。
- ▽ 地域と連携した学びを推進するためには、当協議会において地域の方の意見を聞くことも必要ではないか。

- 老朽化が進む校舎の建替えを考えるためにも、ある程度今後の方向性を決めておく必要がある。現在の1学年47学級から39学級程度にまで減少する令和12年度を1つのゴールとしてはどうか。
- 前回の協議会でも意見のあったように、地域と連携した学びを推進するために地域の方の意見を聞く機会があるとよいのではないかな。
- 子どもたちに選ばれる高校となるためには、多様な学びの選択肢などのソフト面はもちろんのこと、エアコンや専門性の高い学びに必要な施設・設備などのハード面でも充実した学校にしていく必要があるのではないかな。
- 各高校では、学級減が進む中でどのように特色を出していくかを考え始めている。統合についての協議を急ぐのではなく、津地域の小中学生の学びの選択肢を残すために、どのように各校の特色を出していくかを議論することが大切である。
- 津地域の協議会は、他地域と比べると方向性を取りまとめるまでに少し時間的な余裕があるので、統合を含む学級減への対応だけを議論するのではなく、学校の魅力化に向けていろいろなアイデアを出していきたい。

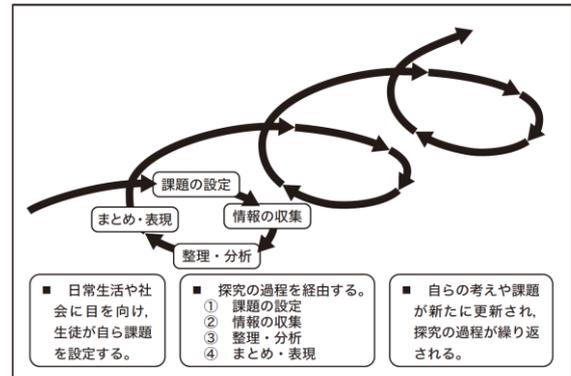
- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・津地域の高校の魅力を高めるにはどうしたらよいのかを、子ども目線で考える ・子どもたちが主体的に進路を選択できるよう、地域の小中学生や高校生のニーズや思いを調査する ・私立高校の授業料無償化の動向や影響を注視する ・隣接地域の協議会の検討状況も考慮する ・地域と連携した学びを推進するため、関係者の意見を聞く ・老朽化が進む校舎の建替えも考える ・ソフト面はもちろんのこと、施設・設備などのハード面でも充実した学校にしていく ・どのように各校の特色化、魅力化について議論する |
|--|

各校における地域と連携した学びについて

1 総合的な探究の時間とは

- 平成 12 年から小学校・中学校・高校で、段階的に「総合的な学習の時間」が始められた。
- 平成 30 年に告示された学習指導要領で、高校については「総合的な探究の時間」に名称が変更され、より深い学びへと進化した。また、「古典探究」「地理探究」「理数探究」など、探究の名前がつく科目も新設された。
(実施は、令和 4 年度 1 年生より)

探究における生徒の学習の姿



- 「総合的な学習の時間（中学校）」と「総合的な探究の時間」の比較。

総合的な学習の時間（中学校）	総合的な探究の時間
<p>【目標】 探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、<u>よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力</u>を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。</p> <p>(2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。</p> <p>(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。</p>	<p>【目標】 探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、<u>自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力</u>を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究の過程において、課題の<u>発見</u>と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。</p> <p>(2) 実社会や実生活と<u>自己との関わり</u>から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、<u>新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しよう</u>とする態度を養う。</p>
<p>【標準授業時数】 1 年生：50 時間、2・3 年生：70 時間ずつ 計 190 時間</p>	<p>【標準単位数】 卒業までに 3～6 単位（105～210 時間）</p>

2 地域と連携した学びについて

- ・【**高等学校学習指導要領 総則編**】学校と地域の連携・協働が進められてきているところであり、これらの取組を更に広げ、教育課程を介して学校と地域がつながることにより、地域でどのような生徒を育てるのか、何を実現していくのかという目標やビジョンの共有が促進され、地域とともにある学校づくりが一層効果的に進められていくことが期待される。
- ・【**社会教育法**】教育委員会は、(中略)地域住民等の積極的な参加を得て当該地域学校協働活動が学校との適切な連携の下に円滑かつ効果的に実施されるよう、地域住民等と学校との連携協力体制の整備、地域学校協働活動に関する普及啓発その他の必要な措置を講ずるものとする。
- ・【**Society 5.0 に向けた人材育成**】地域には、それぞれ生きた課題が数多く存在するため、生徒の地域への興味や関心を深め、地域の課題を探究する重要な機会を提供できる。(中略) Society 5.0 を迎える今後は、生徒にとって最も身近である地域と学校とが手を携えながら、体験と実践を伴った探求的な学びを進めていく必要がある。こうした学びが学校生活を一層充実したものとし、自らの特性を踏まえた将来の進路と真剣に向き合う契機となるであろう。これは同時に、各地域への課題意識や貢献意識を持った人材の育成にもつながる。こうした人材がそれぞれの地域で地域ならではの新しい価値を創造するようになれば、Society 5.0 を地域から分厚く支えていくことにつながっていく。
- ・【**普通科改革**】令和4年度より、普通教育を主とする学科として、普通科以外の学科を設置可能とする。
(例) 地域社会学科：現代的な諸課題のうち、高等学校が立地する地元自治体を中心とする地域社会が抱える諸課題に対応し、地域や社会の将来を担う人材の育成を図るために、現在及び将来の地域社会が有する課題や魅力に着目した実践的な特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科

- ・このように、高校と地域が連携し、地域でどのような生徒を育てるのかなどの目標やビジョンを共有するとともに、生徒が地域の課題等を解決する中で、これからの時代に必要な資質・能力を身につけたり、地域の産業や文化等への理解を深めたりすることが大切であることが、さまざまな面から指摘されている。

- ・【**三重県教育ビジョン 基本施策6「学びを支える教育環境の整備」 ④地域とともにある学校づくり**】県立学校では、保護者や地域住民等の参画による学校運営の改善や地域との連携を進めるとともに、地域と協働した学習を推進します。

- ・これらを受けて、県内の高校では、それぞれの学校が設置されている地域や学校の状況に合わせて、「地域と連携した学び」が総合的な探究の時間を中心に行われている。

3 各校の取組

地域と連携した学び【三重県立津高等学校】

1. 三重県をフィールドとした探究活動

SSH（スーパーサイエンスハイスクール）事業を活用し、三重県の豊かなフィールドを活用し実社会とつながった学びを実現しています。令和8年度からの進学型単位制の導入に伴い、生徒が独自で行う現場での探究活動を単位認定する仕組みも整えました。

(1) 地元企業での研修

○ 井村屋、おやつカンパニー、住友電装、キオクシア等の研究室を訪問・見学

(2) 現場での実習を伴った探究活動

○ 二木島プロジェクト…熊野市二木島町の漁港で合宿し定置網や海底調査を実施

○ 田んぼプロジェクト…学校に隣接する田にて無農薬・手作業のみで稲作実験

○ 赤目四十八滝での岩石観察と生態調査

○ 神島での地域医療体験実習、御在所岳での樹氷観察実習など

(3) 研究成果発表会への地元企業の参加

○ 本校での探究発表会に地域企業がブースを出展し参加



二木島での定置網体験

2. 図書館での地域人との交流

放課後に、図書館文化講座、車座トークなど多彩なイベントが年間30回以上あり、地域で活躍する様々な人と出会い学び合える場となっています。

(例) 津地方裁判所裁判官、神島診療所長、三重県関西事務所長、写真家、酒蔵経営者、石水博物館学芸員、障がい者支援センター長、谷川士清邸学芸員、和菓子店経営者 等

3. 小・中学校との交流

年齢が下の世代に主体的に関わることで、目的意識が高まるだけでなく周りに気を配る力や他者を思いやる力などの非認知能力向上が期待できます。

(1) 「探究道場」の実施

→津高生が指導する小中学生向け科学実験講座を理科棟で実施

(2) 新町小学校との交流…隣接しているため頻繁に訪問・教える楽しさを実感

①朝の読み聞かせボランティア

→教員志望の生徒が朝に絵本を読み聞かせ

②各部活動による交流集会

→音楽部、ダンス部、ジャグリング部、書道部などが演奏や演技を披露

③台湾研修来日時の科学実験講座

→姉妹校の台湾生徒が来日した際に津高生とともに英語での科学実験を実施



新町小学校での読み聞かせボランティア

4. 津市の「まちづくり」への生徒の参画

主権者としての意識の醸成に役立っています。

(1) 西村ゼミ → 大学教授の指導のもと大門商店街活性化を立案。市長に提案予定

(2) 津市の政策立案に本校生徒が参画（「津市こどもまんなか社会実現会議」）

地域と連携した学び【三重県立津西高等学校】

【目指す学校の姿】

- 高い知性と豊かな感性を備え、高い志と広い視野を持って、夢の実現に向け行動する、たくましい生徒の育成を目指す学校
- 豊かな人間性と社会性を持ち、社会の進展に主体的に対応して、国際社会、地域社会に貢献する生徒の育成を目指す学校

1. 探究活動「西考」について

平成 29 年度から、これからの社会で求められる、他者との協働による課題発見・解決および表現力を養うため、「総合的な探究の時間」を「西考」と名付け、2 年生で「課題研究」に取り組んでいます。

(1) **人権総合学習（1 年生）** 地域の専門家のお話に触れ、現地でのフィールドワークにも取り組みながら、10 の人権課題を総合的かつ実践的に学んでいます。

(2) **課題研究（2 年生）** 自分の興味・関心を起点にテーマを定め、仮説を立てながら探究を進めています。その探究を支える鍵が、地域で活躍する大人の方々の力です。令和 6 年度から「**西高サポートクルー**」を新設し、地域・外部人材との連携をさらに深化させました。

生徒たちは地域と連携し、まちおこしのパンフレット制作や祭りの出店運営、売上の寄付など、地域を支える多彩な活動に取り組んでいます。また、新しいスポーツの考案と小学校での実証実験、性教育教材の制作、歴史を生かした商品の開発・販売など、学びを社会に広げる実践も行いました。

さらに、災害リスクの調査や避難方法の研究、地元企業の協力による防音壁の研究成果の発信、地域活性化のビジネスプラン提案など、地域課題に向き合う探究も進めています。

これらの取組はすべて、地域の皆さまの支えを得て実現しており、「**学びを地域へ展開・還元する**」本校の探究活動の象徴となっています。



2. 異校種間連携について

(1) **小学校** 教員をめざす生徒が、授業見学と指導案づくりを経て地域の小学校で授業実践に挑戦しました。今年度は別テーマで小学生を対象とした実証実験も行い、学びを実践に生かす取組を広げています。

(2) **中学校** 10 の課題研究グループが中学校（1・2 年生）で発表を行い、質疑応答や座談会を通じて活発な交流が生まれました。高校での探究活動だけでなく、学習や部活動など高校生活への関心を高める機会となりました。

(3) **大学** 教授による直接の指導に加え、キャンパス訪問や実習にも取り組んでいます。また、今年度は、三重大学の教授に本校の探究活動を視察いただき、専門的な助言を賜りました。

地域と連携した学び【三重県立津東高等学校】

1. 探究活動「自分らしくプロジェクト」

令和4年度より、これまでの探究活動をより充実させ「自分らしくプロジェクト」と銘打ち、地域の外部人材をメンターとして取り組んでいます。本プロジェクトでは探究活動を通じて生徒自身のポテンシャルを最大化し、その力を日常生活や教科学習に転化し、さらには進路実現につなげ、自分らしく持続可能な社会作りに参画できる力の育成をめざしています。生徒が主体的に探究活動に取り組み、自身の「小さな自己」を自覚し、自分ができること、得意なこと、やりたいことを意識して自己肯定感を高めつつ、固定概念にとらわれることなく、社会の多様性を前向きに捉え行動できるような「しなやかマインドセット」を身につけることを願っています。

令和6年度の活動では、伊勢茶と柚子に興味を持った生徒がこれらを使った食品開発に取り組みました。外部メンターからのつながりで地域の飲食店と出会い、協働で開発をする機会に恵まれ伊勢茶と柚子を使用したクッキーができあがりました。学校の授業ではあまり触れることのない商品の「規格書」や「販売戦略」を作成したり、実際にスーパーで販売をしたりし、外部の方のサポートのおかげで、大きな社会経験を積むことができました。このクッキーは、2024年度の「三重の食セレクション」にも選定され、生徒は大きな達成感と喜びを感じておりました。



2. さまざまな職種の外部メンター

生徒の探究活動をさまざまな角度から支えてくれる方を外部メンターとして、「自分らしくプロジェクト」活動当初よりお迎えしています。外部メンターには、地域のNPO法人代表、会社経営者、コンサルタント、医師、大学教授、芸術家などや大学生サポーターとして卒業生が参画してくれています。

生徒は、さまざまな職種の外部メンターからのアドバイス受けることで、多様な考え方に触れることができ、気づきや自身の思考を深めるきっかけとなっています。



3. その他

- ・地域人材による出前授業
- ・地元自治会の音楽祭や福祉施設等のクリスマス会でクラブが発表

これらの活動をとおして、生徒一人ひとりの自分らしくたくましく「未来を切り拓く力」(対話力・追究力・想像力・発信力)の育成をめざしています。

地域と連携した学び【三重県立久居高等学校】

久居高校では、めざす学校の姿「学校生活の充実に加え、進学にも就職にも対応した確かな進路保障を通じて、地域や社会に貢献する人材を育てることができる学校」の実現に向け、下記のような地域と連携した学びに取り組んでいます。

1. スポーツコースにおける取組

スポーツコースでは、スポーツを実生活に役立てることができるようにするとともに、生涯を通してスポーツの振興発展に関わることのできる資質や能力を育てることをめざしています。

「スポーツ概論」「スポーツ総合演習」において、地域の園児や小学生との異年齢交流を行い、スポーツの指導や運営を行う力、スポーツを通して社会参画を行う力を養うため、2年生は、のべの幼稚園において、3年生は、津市立誠之小学校、津市立成美小学校、津市立桃園小学校、津市立戸木小学校において実習を行います。



2. 「コミュニケーション授業」における取組

よりよい人間関係を築くために、コミュニケーション力を養うことをめざし、地域の保育園での異年齢交流を行うなど、他者との関わりの中で心の成長を図る取組を行っています。

3年生の1学期に、2学期からの交流に向けて、学校にてオリジナル教材を使用し「コミュニケーションワーク」に取り組みます。2学期からは週に一回、津市立北口保育園または津市立こべき保育園へ行き園児と交流します。園児との交流にあたって、真剣に向き合い工夫することを学びます。また、園児とのふれあいから、自らが地域の中で育ってきたことや自らが地域で役に立てることを体感し、自己肯定感を高めます。

3. 「看護医療探究」「幼児コミュニケーション」における取組

3年生では、看護師をめざす生徒は「看護医療探究」において、国立三重中央医療センター、ユマニテク看護助産専門学校、ユマニテク医療福祉大学から、保育士や幼稚園教諭をめざす生徒は「幼児コミュニケーション」において、高田短期大学、ユマニテク短期大学、鈴鹿大学から講師の先生に来ていただき、職業に対する心構え等を学びます。地域で活躍する方々から直接お話を聞くことで、主体的に自らの進路を考え将来を切り拓く力を育てるキャリア教育を行っています。

地域と連携した学び【三重県立白山高等学校】

1. 本校の目指す姿

本校は「地域を愛する若者を育成し、地域の活性化に貢献する取組を行う学校」として、「自他を尊重する態度、基礎学力と規範意識、地域から信頼され、地域の活性化に貢献する精神を身につけている生徒」の育成を目指しています。



2. 「勤労体験学習」から「探究活動」へ ～30年の歩み～

1996（平成8）年度から3年間の旧文部省・勤労体験学習総合推進校指定を受け、インターンシップ（勤労体験）が始まりました。「地域こそ学びの場」として、3年生が年間を通して地域で勤労体験を積む取組は、地域の協力を得ながら30年間にわたり続いています。

「総合的な探究の時間」を活用し、高校3年間を通して社会性と勤労観を育みます。

1年：自分を知り、仲間とともに「学び方」を知る

➡ 自他を認めあう「ソーシャル・スキル」の育成、学びの視野を広げる「ICTスキル」の伸長に重点を置きます。

2年：地域を知り「地域課題」に取り組む

➡ 「白山高生が地域を盛り上げます」をテーマに地域課題解決型学習「白山学」に取り組み、毎年2月に「学習成果発表会」を開催します。

3年：勤労と探究を通して「社会」を知る

➡ 普通科：年間を通したインターンシップを実施します。令和7年度は地域の9か所の事業所（教育、福祉、リゾート、小売・飲食、理美容）にお世話になっています。

➡ 情報コミュニケーション科：観光、ビジネスの視点から地域の発展を探究します。



<https://www.mie-c.ed.jp/hhakus/> ← 【白山高校HP】

3. 地域の声を学校運営に ～コミュニティ・スクール（CS）の取組～

2013（平成25）年度より、学校運営協議会を設置する「コミュニティ・スクール」に指定されています。地域、学校、企業等の関係者、有識者からなる学校運営協議会を年間3回開催し、学習活動及び学校運営の課題と成果を共有して改善に向けた助言をいただいています。

4. その他の取組

地域の行事参加・交流 地域の活動や行事（家城地区クリーン作戦、家城地区文化祭、一志病院健康のつどい、ふれあいフェスタ、…）、地域の小中学生との交流（夏休み！キッズ学習支援プロジェクト、クリスマス交流会、…）など、毎年、本校生徒が参加しています。

JR名松線 本校生徒の7割以上が通学に利用している名松線。令和2～4年度には「名松線勝手に応援団プロジェクト」でPRポスターを作製し、地域ゆかりの和菓子などを考案。令和7年度には「名松線応援胸キュンポスター・リニューアルプロジェクト」が始動しました。令和7年12月の開業90周年記念行事では、記念列車ヘッドマークのデザインなどで白山高校生が協力しました。

地域の中学生・保護者を対象としたアンケート調査の実施について

- 調査主体：津地域高等学校活性化推進協議会
- 調査形態
 - 中学生：一人一台端末でLoGoフォームを活用した生徒アンケートを実施
 - 保護者：市町教委から中学校、生徒を通じてアンケートの依頼を配付
Webによる回答か、紙媒体による回答
- 調査対象者
 - 中学生：津地域の公立中学校に在籍する2年生(約2,400人)の生徒
 - 保護者：津地域の公立中学校に在籍する2年生(約2,400人)の保護者
津地域の公立小学校に在籍する5年生(約2,300人)の保護者
- 調査期間：令和8年9月頃

参考：令和6年度 伊賀地域の中学生・保護者を対象としたアンケート調査

- 調査主体：伊賀地域高等学校活性化推進協議会
- 調査形態：
 - 中学生：一人一台端末のC B Tシステム利用による生徒アンケートを実施
 - 保護者：市町教委から中学校、生徒を通じて紙媒体アンケートを配付
Webによる回答か、紙媒体による回答
- 調査対象者
 - 中学生：伊賀地域の公立中学2年生全員（伊賀市・名張市）
 - 保護者：同上の保護者、伊賀地域の公立小学校に在籍する5年生の保護者
- 調査期間：令和6年9月中旬～10月25日（金）
- 回答者数
 - 中学生：1,076人／1,307人（回収率約82.3%）
 - 保護者：1,096人／2,604人（回収率約42.1%）
- 多言語対応：ポルトガル語・スペイン語・タガログ語・ビザイヤ語

こうこう しょうらい かん しつもんようし
高校や将来に関するアンケート 《質問用紙》

資料 9②
中学生

つち いき こうりつちゅうがっこう ねんせい
津地域の公立 中学校 2年生のみなさんへ

○ 二次元コードを読み取り、Webアンケートに回答してください。

つち いきこうとうがっこうかっせい か すいしんきょうぎ かい
津地域高等学校活性化推進協議会



Web アンケート

1 右枠内のIDを書いてください。

ID: TS12345

2 右枠内のPWを書いてください。

PW: 0000

追加

3 あなたは、どの地域に住んでいますか。次の中から1つ選んでください。

- | | | | |
|--------|--------|---------|--------|
| ① 旧津市 | ② 旧久居市 | ③ 旧河芸町 | ④ 旧芸濃町 |
| ⑤ 旧美里村 | ⑥ 旧安濃町 | ⑦ 旧香良洲町 | ⑧ 旧一志町 |
| ⑨ 旧白山町 | ⑩ 旧美杉村 | ⑪ その他 | |

4 あなたの学校の中学2年生は、全体で何人ですか。次の中から1つ選んでください。

- | | | | |
|------------|------------|----------|-----------|
| ① 20人以下 | ② 21～40人 | ③ 41～80人 | ④ 81～120人 |
| ⑤ 121～160人 | ⑥ 161～240人 | ⑦ 241人以上 | |

5 あなたは、中学校卒業後どのような進路を希望しますか。次の中から1つ選んでください。

- | | |
|------------------|-------------------|
| ① 高校等へ進学（設問6以降へ） | ② 就職・その他（設問14以降へ） |
|------------------|-------------------|

6 あなたは、高校を選ぶとき何を重視しますか。次の中から6つ以内で選んでください。

- | | |
|------------------------------|-------------------------|
| ① 学びたい学科やコースがある | ② 確かな学力を身につける授業が充実している |
| ③ 専門的な知識や技能、資格が習得できる | |
| ④ 自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できる | |
| ⑤ 地域と連携した活動が充実している | ⑥ 文化祭や体育祭などの学校行事が充実している |
| ⑦ 入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている | |
| ⑧ 友だちや先輩、先生などとの多くの出会いがある | |
| ⑨ 一人ひとりの状況に応じて、きめ細かな教育が期待できる | |
| ⑩ 通学がしやすい・学校までの距離が短い | ⑪ 学校の雰囲気やイメージがよい |
| ⑫ 施設や設備が充実している | ⑬ 進学、就職の実績がある |
| ⑭ 自分の適性や能力にあっている | ⑮ 先生や保護者、友だち等の周囲の人の意見 |
| ⑯ 学費などの経費負担が少ない | ⑰ その他（質問7の自由記述へ） |

7 質問6で「⑰ その他」を選んだ人は、重視する点を書いてください。

8 あなたは、入学する高校にどのような教育を期待しますか。次の中から5つ以内で選んでください。

- | | |
|---------------------------------|----------------------|
| ① 自ら学び続ける力が身につく教育 | |
| ② 自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育 | |
| ③ 多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育 | |
| ④ 地域を題材として学ぶ教育 | ⑤ 大学や企業等と連携・協働して学ぶ教育 |
| ⑥ 人権に対する意識が高まる教育 | ⑦ 基本的な知識が身につく教育 |
| ⑧ ICTを積極的に活用する教育 | ⑨ 広く世界で活躍できる力が身につく教育 |

- ⑩ 社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育
- ⑪ 社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育
- ⑫ 特別活動や部活動などを通じて豊かな人間性が身につく教育
- ⑬ 一人ひとりの状況に応じて適切な支援が受けられる教育
- ⑭ その他（質問9の自由記述へ）

9 質問8で「⑭ その他」を選んだ人は、期待することを書いてください。

10 あなたが理想とする高校は、1学年あたりどのくらいの学級数（人数）ですか。質問6の「高校を選ぶときに重視する点」と質問8の「高校に期待する教育」の回答もふまえ、次の中から1つ選んでください。 ※高校の学級は、1学級40人を基本としています。

- ① 1学級（40人）
- ② 2学級～3学級（80～120人）
- ③ 4学級～6学級（160～240人）
- ④ 7学級以上（280人～）
- ⑤ 学級数にはこだわらない

11 あなたが理想とする高校への通学は、片道どの程度の時間までかけることができますか。次の中から1つ選んでください。

- ① 30分以内まで
- ② 60分以内まで
- ③ 90分以内まで
- ④ 120分以内まで
- ⑤ 121分以上

12 あなたが行きたい課程はどれですか。次の中から1つ選んでください。

- ① 全日制課程
- ② 定時制課程
- ③ 通信制課程
- ④ まだ決めていない、わからない

全日制課程	中学校等と同じように昼間の時間帯に授業を行う課程
定時制課程	夜間その他特別な時間帯に授業を行う課程（昼間部が設置されている学校もあります）
通信制課程	自宅で教科書や学習書を使って勉強し、レポートを提出することや、学校でのスクーリング（面接指導）に出席することにより学習する課程

13 あなたが行きたい学科はどれですか。次の中から1つ選んでください。

- ① 普通科、専門学科（普通科系）
- ② 専門学科（職業系）
- ③ 総合学科
- ④ まだ決めていない、わからない

普通科	学習の中心が普通教科に置かれている。中学校等で学習したことを基礎にして、さらに幅広い一般的な教養を身につけることをねらいとする。
専門学科	それぞれの学科に関する専門的な知識・技術を身につけることをねらいとする。
職業系	農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報、福祉などの職業教育を主とする学科
普通科系	理数、体育、英語、国際などの職業系以外の専門教育を施す学科
総合学科	普通科・専門学科両方の性格を持つ学科。必修科目以外は、自分の進路希望や興味・関心に基づいて、科目を選択して学ぶことができる。

14 将来、あなたはどこで生活したり、働いたりしたいですか。次の中から1つ選んでください。

- ① 地元（津市）
- ② 津市以外の三重県内
- ③ 県外
- ④ 海外
- ⑤ 一度は地元を離れても、いつかは戻りたい
- ⑥ まだ決まっていない、わからない

15 「高校や将来に関するアンケート」の内容に関して、考えや思いがあれば、書いてください。

「津地域の県立高校に関するアンケート」について

津地域の公立中学校2年生・公立小学校5年生の保護者のみなさんへ

令和8年●月 津地域高等学校活性化推進協議会

本協議会では、当地域の県立高校の活性化について協議しており、その中で地域の生徒・保護者の方の意見を参考に協議を進めたいと考えています。つきましては、以下の資料を参照のうえ、アンケートにご協力いただきますようお願いいたします。（当地域の公立中学校2年生を対象に、別途、アンケートを実施しています。）

来年度の状況に合わせて、数値等は、修正します。

【資料】

- グローバル化やデジタル化などの社会の大きな変化、少子・高齢化のさらなる進行、教育的ニーズの多様化が進む中、令和4年3月に策定した「県立高等学校活性化計画」では、これからの子どもたちにとって魅力ある県立高等学校のあり方や活性化について検討し、実現していくこととしています。
- その中で、15年先までの中学校卒業者の減少の状況等をふまえると、これからの時代に求められる学びを提供していくには、現在の県立高校の配置を続けていくことは難しい状況であるため、各地域の活性化協議会において、高等学校の学びと配置のあり方についての検討を丁寧に進めるとしており、津地域においては、本協議会で検討を進めています。
- 令和7年度の津地域の全日制県立高校1年生の総学級数（定員）は、8校で47学級1,880人となっています。
 - ・津（8学級320人）
 - ・津西（8学級320人）
 - ・津商業（6学級240人）
 - ・津東（6学級240人）
 - ・津工業（6学級240人）
 - ・久居（5学級200人）
 - ・久居農林（6学級240人）
 - ・白山（2学級80人）

※津地域には、「みえ夢学園高校」（定時制：午前の部40人、午後の部40人、夜間部40人）もあります。
- 令和7年3月から22年3月までの中学校卒業生数の予測や地域での出生数をもとに、進路状況や他地域との流入などを考慮して、津地域の全日制県立高校の学級数を予測すると、15年先の令和22年度にはおよそ22～26学級程度となり、令和7年度の47学級と比べて21～25学級減少することが見込まれます。

	令和7年3月 (現高1)	令和9年3月 (現中2)	令和12年3月 (現小5)	令和22年3月 (令和6年度生まれ)
中学校卒業生数(予測値)	2,527人	2,451人	2,299人	1,531人
総学級数(全日制)	47学級	43学級程度	39学級程度	22～26学級程度

(参考)

これまでの協議会の概要や配付資料については、三重県Webページをご覧ください。

三重の教育「各地域における高等学校活性化推進協議会」Webページ ⇒
(<https://www.pref.mie.lg.jp/KYOKAI/HP/kasseika/19674018868.htm>)



アンケートの実施について

○ 調査対象

- ・津地域の公立中学校2年生の保護者及び公立小学校5年生の保護者
※両方の学年にお子さんがある場合や、同じ学年に複数のお子さんがある場合は、1つの回答としてください。

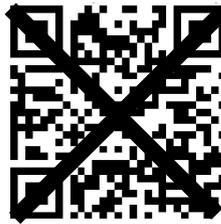
○ 調査方法

- ・Webアンケート（「LoGo（ロゴ）フォーム〈県の電子申請・届出システム〉」）による回答。
※Webアンケートにより回答した場合は、回答用紙の提出は不要です。
※Webアンケートによる回答がむずかしい場合は、回答用紙に記入してください。
- ・パソコン、スマートフォンなどから下記のアドレスへアクセスするか、「二次元コード」を読み取り、Webアンケートに回答してください。

○アドレス

<https://logoform.jp/f/> ●●●

○二次元コード



○ 所要時間（目安）

- ・8分程度

○ Webアンケートによる回答・回答用紙の提出期限

- ・令和8年●月●日（●曜日）まで
※回答用紙を利用する場合は、在籍する小中学校へ提出してください。

○ 注意点

- ・Webアンケートの回答送信後の修正はできません。回答内容をよくご確認の上、送信してください。

○ その他

- ・ご協力いただきました調査データは調査目的以外には使用いたしません。
- ・当アンケートにかかるご質問等がございましたら、下記までご連絡ください。
(事務担当) 三重県教育委員会事務局 教育政策課 059-224-2951 (平日9:00~17:00)

※「LoGo フォーム」は、提供元サービスの名称です。

津地域の県立高校に関するアンケート《質問用紙》

資料9④
保護者

- 二次元コードを読み取り、Webアンケートに回答してください。
- Webアンケートによる回答がむずかしい場合は、回答用紙をご利用ください。



Web アンケート

- 1 右枠内のIDをお書きください。
- 2 右枠内のPWをお書きください。

ID: TP12345
PW: 0000

追加

- 3 あなたは、どの地域に住んでいますか。次の中から1つ選んでください。

- | | | | |
|--------|--------|---------|--------|
| ① 旧津市 | ② 旧久居市 | ③ 旧河芸町 | ④ 旧芸濃町 |
| ⑤ 旧美里村 | ⑥ 旧安濃町 | ⑦ 旧香良洲町 | ⑧ 旧一志町 |
| ⑨ 旧白山町 | ⑩ 旧美杉村 | ⑪ その他 | |

- 4 あなたのお子さんはどちらの学年ですか。次の中から1つ選んでください。

- ① 中学2年生 ② 小学5年生 ③ 両方

- 5 あなたのお子さんが所属する学年は全体で何人ですか。次の中から1つ選んでください。

※ 両方の学年にいる場合は、上の学年でお答えください。

- ① 20人以下 ② 21～40人 ③ 41～80人 ④ 81～120人
⑤ 121～160人 ⑥ 161～240人 ⑦ 241人以上

- 6 お子さんが高校を選ぶときには、何を重視してもらいたいですか。次の中から6つ以内で選んでください。

- | | |
|------------------------------|-------------------------|
| ① 学びたい学科やコースがある | ② 確かな学力を身につける授業が充実している |
| ③ 専門的な知識や技能、資格が習得できる | |
| ④ 自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できる | |
| ⑤ 地域と連携した活動が充実している | ⑥ 文化祭や体育祭などの学校行事が充実している |
| ⑦ 入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている | |
| ⑧ 友だちや先輩、先生などとの多くの出会いがある | |
| ⑨ 一人ひとりの状況に応じて、きめ細かな教育が期待できる | |
| ⑩ 通学がしやすい・学校までの距離が短い | ⑪ 学校の雰囲気やイメージがよい |
| ⑫ 施設や設備が充実している | ⑬ 進学、就職の実績がある |
| ⑭ 自分の適性や能力にあっている | ⑮ 先生や保護者、友だち等の周囲の人の意見 |
| ⑯ 学費などの経費負担が少ない | ⑰ その他（質問7の自由記述へ） |

- 7 質問6で「⑰ その他」を選んだ方は、重視してもらいたい点をお書きください。

8 お子さんが入学する高校には、どのような教育を期待しますか。次の中から5つ以内で選んでください。

- ① 自ら学び続ける力が身につく教育
- ② 自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育
- ③ 多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育
- ④ 地域を題材として学ぶ教育
- ⑤ 大学や企業等と連携・協働して学ぶ教育
- ⑥ 人権に対する意識が高まる教育
- ⑦ 基本的な知識が身につく教育
- ⑧ ICTを積極的に活用する教育
- ⑨ 広く世界で活躍できる力が身につく教育
- ⑩ 社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育
- ⑪ 社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育
- ⑫ 特別活動や部活動などを通じて豊かな人間性が身につく教育
- ⑬ 一人ひとりの状況に応じて適切な支援が受けられる教育
- ⑭ その他(質問9の自由記述へ)

9 質問8で「⑭ その他」を選んだ方は、期待することをお書きください。

10 お子さんには、1学年あたりのどれくらいの学級数(人数)の高校に進学してもらいたいですか。質問6の「高校を選ぶときに重視する点」と質問8の「高校に期待する教育」の回答もふまえ、次の中から1つ選んでください。 ※高校の学級は、1学級40人を基本としています。

- ① 1学級(40人)
- ② 2学級～3学級(80～120人)
- ③ 4学級～6学級(160～240人)
- ④ 7学級以上(280人～)
- ⑤ 学級数にはこだわらない

11 お子さんが希望する高校に進学するとしたら、通学(片道)にかけてもよいと思う時間は、どの程度までですか。次の中から1つ選んでください。

- ① 30分以内まで
- ② 60分以内まで
- ③ 90分以内まで
- ④ 120分以内まで
- ⑤ 121分以上

12 将来(中学・高校・大学等の学校を卒業後)、お子さんにはどこで生活したり、働いたりしてほしいと考えますか。次の中から1つ選んでください。

- ① 地元(津市)
- ② 津市以外の三重県内
- ③ 県外
- ④ 海外
- ⑤ 一度は地元を離れても、いつかは戻ってきてほしい
- ⑥ 本人の希望次第
- ⑦ 特に考えはない

13 現在、津地域には全日制県立高校が8校配置されており、1学年あたりの学級数は合計47学級です。今後、津地域でも少子化が進み、15年先の令和22年度には合計22～26学級程度になることが見込まれる中、8校を維持すると各学校の小規模化が進むことから、本協議会では今後の津地域の県立高校の配置のあり方について検討を進めています。このことについて、あなたの意見に最も近いものはどれですか。次の中から1つ選んでください。

- ① 統合は避けるべき
- ② 一定の統合は避けられない
- ③ 積極的に統合を進めるべき

14 質問12の①～③を選んだ理由や、今後の津地域の県立高校の配置のあり方に関してのご意見を聞かせください。

15 今後の津地域の県立高校の学びのあり方について、ご意見があればお聞かせください。

※ありがとうございました。